

解体工事 & 建設リサイクル

隔月刊 EConnecture 年6回奇数月1日の発行 通巻第68号
平成27年9月1日発行 平成19年7月6日第三種郵便物承認

隔月刊【イー・コンテクチャー】

自然と資源を再生し環境を創造する。

ECon

Ecology
Construction
Architecture

tecture

9

SEPTEMBER 2015

解体・土木にも影響必至！ 建設副産物 重点課題3品目

第1部 建設汚泥・発生源 特定の大都市圏で発生量急増、民間工事分で流通不安？
第2部 コンクリート塊 2015年度以降の解体ラッシュで、首都圏は再びリサイクル危機？
第3部 石膏ボード 解体系で排出増も、徐々に整う再生石膏粉の用途開拓

【E-Conインタビュー】

企業・団体間連携で建設汚泥・副産物活用に取り組む

(一社) 泥土リサイクル協会

事務局長 野口真一氏 / コミュニケーションスマネージャー 西川美穂氏

【第59回】

24時間体制で廃石膏ボード受入れ可能に ふるい下残さの施設建設を予定

● (株)NRS

解体工事から産廃の再資源化事業で実績を重ねる(株)NRS(福岡県北九州市若松区響町1-79-1、中山卓社長、☎093-752-6100)は、1日8時間稼働だった廃石膏ボード処理施設を24時間にして、受け入れ態勢を強化した。

変更許可が認められたことで、日量80tだった処理能力が、同240tに増加し、西日本でもトップクラスの施設となった。

異物混入に強い破砕機を自社開発

同施設で導入している破砕機は、すべて自社でプランニングした機械ラインで構成

する。最大の特長は、異物混入に強い点で、耐久性に優れている。

排出事業者などから受け入れた廃石膏ボードには、破砕機に投入する前に異物を除去する工程を経る。従来、ビスなど細かなものを完全に取り除くことが難しかった。また、はく離紙の再資源化を阻む要因として、異物混入が散見されていた。

課題をクリアするため、自社で研究・開発。異物混入に伴う破砕機の故障、長時間稼働にも耐え得る破砕機の開発に成功した。

周辺や現場作業員への環境対策として、ヤード前面には粉塵カーテンを設置、施設内はミスト散布を行うなど、粉じん対策を



石膏棟



大規模解体現場では大型コンテナで回収

徹底する。今後の予定として製品ヤード全面に高速シャッターを設置し、さらに対策を徹底する予定。

石膏ボードプラントレンタル事業を検討

石膏ボード処理の経験と実績を活かし、プラントのレンタル事業を計画している。今まで数多くの同業者からプラントについて相談を受けてきたが、石膏ボードリサイクルの需要が高くなっていることから、レンタル事業の計画を検討している。プラントレンタルだけではなく出荷先まで提案する予定だ。

大口から小口まで機動力で原料集荷

原料となる廃石膏ボードの受入れ量強化の一環として、運搬車両

も積極的に導入する。今年は大型トレーラー3台を追加。九州から中四国関西地域まで、遠方での出荷にも対応可能とする。

大型物件から排出されるものだけでなく、小規模現場からのものも対応でき、大口から小口まで機動力を生かした営業で排出事業者の要望に応える。

現在、はく離された紙は、製紙メーカー2



回収・出荷用フルトレーラー

社の搬入基準をクリアし、製紙原料として使用している。

はく離紙の再資源化施設を建設予定

今後の事業展開として、はく離紙の流通促進を目指し、専門のリサイクル施設の完成を目指す。また、建設系廃棄物の再資源化率を高めるため、ふるい下残さの処理施設なども検討している。

廃石膏ボードの再資源化に特化する一方、ふるい下残さなど廃棄物処理全般のプロデュースを手掛ける考えもある。処理施設のラインも一新させ、付加価値化で顧客のニーズに応えていきたいとしている。

大手セメントメーカーと連携し受け皿を確保

石膏粉の大口の出先を確保している点でも大きな強みを持つ。

同社が中心となり、大東商事(株)(熊本市、小原英二社長、☎096-245-4800)、(株)中央環境(長崎市、上田恭介社長、☎095-884-3229)の3社で、石膏ボードの再資源化を促進する「石膏ボード資源リサイクル協会」を設立。再生石膏粉を使用する三菱マテリアル(株)九州工場が連携し、石膏ボードリサイクルシステムとして、国内で初となるモデルケースを九州から構築した。

西日本エリアを3つのブロックに分けて、それぞれの地域から集荷した石膏ボードを中間処理。その後、再生石膏粉については、三菱マテリアル(株)九州工場でセメント原料として再資源化する。

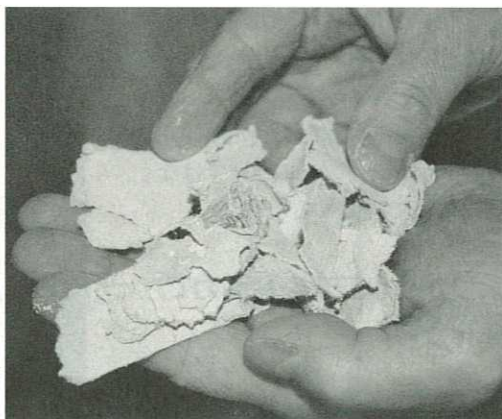
国内で最大クラスのセメント生産量を誇るセメントメーカーの九州工場と連携することで、課題となっていた廃石膏ボードの受け皿を得た。西日本エリアの廃石膏ボードリサイクルが進むことが期待される。西日本エリアを3つの地域に分けることで、利便性や合理性を図り、再資源化のための広域処理を可能とした。

セメント需要増で原料の集荷を強化

今秋、三菱マテリアル(株)九州工場では、廃石膏ボードの受入れ量を6万t超まで伸ばすことを発表している。同工場が大量に廃石膏ボードを使用することから、「出口がある」とした強みを全面に押し出す。

協会として、石膏粉の出し先が明確になったことで排出者側は安心して処理を委託できる。

今後は集荷量の増強を足掛かりに、行政に対する働きかけをしていく。これから解体過渡期を迎え、廃石膏ボードの発生量がますます増える。受け皿を適切に整備していくことで、行政に訴えて再資源化がより進むためのサポートをする方針だ。



㊤石膏粉 ㊦分離後のはく離紙